



つくしぐみだより

2024.2

先日はお忙しい中懇談会にご出席頂きありがとうございました。
懇談会の中でお話して頂いたご家庭での様子を今後の保育に役立てていきたいと思ひます。

4月の懇談会でもお話しさせて頂きましたが、今年につくし組は「一人遊び」を大事に保育を進めてきました。
あゆみや写真、Instagram等で様子は見聞きしているとは思ひますが、最近の子どもたちの様子に変化が見られるようになったので、少しではありますがこの場を借りて紹介させて頂きます。

「一人遊び」を大事にすることは気持ちを大事にすることに繋がる

—自分の遊びを大事にされた子は友だちの遊びも大事にします—

「かして」「いいよ」
「いれて」「まってね」
「これ つかっているよ」
「あとでね」
「いっしょにやろう」
「終わったらね」



等々これら全て今の子どもたちが発している言葉です。まだまだ子どもたちだけで全てがスムーズに行くわけではありませんが、少しずつこうしたやりとりが成立するようになりました。

こうした「言葉・言語面での発達」はもちろん大事ですが、根底にある「友だちの遊びも大事」「友だちと一緒に楽しい」という気持ち、精神面での成長も同じくらい大事なように思ひます。

子どもたちの心情を図にすると以下のような感じでしょうか・・・

一人遊び楽しい→隣の子の遊びも気になる→同じ遊びをしてみた→これも（この遊びも）楽しい→何だか友だちも楽しそう→私も楽しい→一緒に楽しい→だから、また一緒に遊ぶ→なんだか友だちの気持ちが分かる（共有できる）

今年一緒に過ごしてきて、どの子も本当によく遊ぶなあ～と感心させられる一年でした。

保育園は一日の大半を遊んで過ごします。でも、ただ、遊んでいるのではなく、その遊びの中で様々なことを感じ、学んでいきます。

今年につくし組の子どもたちは遊びを通して少しずつ思いを共有できるようになり、自分の思いを伝えたり、友だちの思いに気付けるようになってきたと思ひます。

この学びを来年度以降に繋げ、更なる成長に繋げていきたいと思ひます。